

敷地見学のポイント

- 1 多方面からのアクセスに対応する歩行者動線の計画
- 2 総合庁舎の設えを活かせる施設計画
- 3 サービス側にとって充実したバックヤードの計画
- 4 内外に連続する滞在空間のつくり方
- 5 旭川市のランドマークとなるような外観デザイン

市総合庁舎と新文化ホールとで緑橋側のラインを揃えると見栄えは良くなると思われるが、バックヤードに面積を確保しようとする場合、工夫が必要

総合庁舎前のオープンスペースが有効活用されていない

当該スペースを活用し、両施設の共有エリアとして連続性を持たせることで、ゆとりある空間を実現できるのではないかな

バス停利用者がアクセスしやすい動線が必要なのではないかな

エントランスを半円形とし、多方面からのアクセスを許容する設えとした方がよいのではないかな

積雪時を考慮し、前面道路からの滞在空間のうち、少なくとも歩行者の動線には、底がかかっていると良い

現在の植栽エリアは外側から鑑賞するデザイン

居心地のよい滞在空間にするなど、植栽のデザインを工夫できると良い

樹木は条件次第で敷地内外に移植可能

建物や滞在空間の配置検討を通して、望ましい植栽配置も見えてくるのではないかな

旧総合庁舎の前庭



大ホール用搬出入口



市総合庁舎と建設予定地間の空間は、駐車場からの主要アクセス動線となるように整備すべき

市総合庁舎～新文化ホールの屋外動線には屋根の下でつなげたいが、閉塞感を生まない形としたい

ベンチを置くなど、屋外でも滞在空間として整備する方法もある

敷地東側に車寄せを整備する場合、空間全体に屋根をかけられなくとも、動線の安全性や使い勝手を優先し、通路幅の確保を優先すべきでは

降雨・降雪時でもスムーズに搬出入できるよう、搬出入口には屋根があるか、屋内に設置することが望ましい

搬出入口が1台分しかなく、車両後方からしか搬出入できない

2台同時に搬出入でき、また側面を開放可能な車両にも対応したい

ピロティ柱上部構造躯体



市総合庁舎と新文化ホールの車寄せを個別に設けるのか、兼用とするのか検討する必要がある

市総合庁舎南側ピロティの柱上部にある既存の車寄せ用構造躯体を活用できれば、見た目も良く理想的である

車動線と歩行者動線の分離等を意識して検討する必要がある

トラックの後退スペースが狭い

現市民文化会館では搬出入と関係者車両のスペースが不十分

限られた空間において、来館者用オープンスペースを重視するか、搬出入スペースを重視するかによって、整備の仕方が変わってくる

現市民文化会館では小ホールと展示室の搬出入動線が重複し不便

ホールと展示室の搬出入動線を分け、利便性を向上する必要がある

小ホール・展示室搬出入口



地下タンクの上部についてどの程度までの使用が許容されるのか確認が必要である

諸室の空間を考えると、敷地西側の空間に余裕を持つことが難しくなり、積層化の検討が必要になる

搬出入口や関係者用駐車場のために地下を整備しても良いのでは？

大型車両の転回スペースや、地下へのスロープ等のため、必要な空間が増加し、建設費も高くなると想定される

1階の一部をピロティとし、関係者駐車場や搬出入スペースとするか、又は敷地外に別途関係者駐車場を用意する方が、空間的にも費用面でも現実的か

街路樹や電柱の配置を考慮し、トラックや関係車両の動線をスムーズにする必要がある

必要に応じ移設等も検討

もともと建っていた旧総合庁舎もそれなりの高さがあった

ボリュームが上に大きくなることは、それほど景観上の問題にはならないのではないかな

フライトタワーは敷地南側に位置しても支障ないと思われる

建物を斜めに配置すると、グリッド状で統一的なデザインの街並みに対し、違和感を生む恐れがある
意匠を凝らした外観デザインが実現できれば、新たなランドマークとしての効果が期待できる

仮に積層化しても、大ホールを2階に、小ホールを1階に配置、搬出入用エレベーターは大ホール専用にするれば、大きな支障なく運用可能では

S=1:800

0 10 20 50(m)

OMO7 旭川